

所 報

一九八一年一月から十二月までの期間における社会科学研究所の諸活動の報告をする。

一 機構および人事

(一) 所員総会

1 第三七回定例所員総会（一九八一年六月一日、神田校舎社研分室）

議事 (1) 大友所長挨拶、(2) 大友所長を議長に選出、(3) 新所員の委嘱、(4) 一九八〇年度事業報告、決算報告、会計監査報告——以上の諸報告を承認、(5) 三輪新所長挨拶、(6) 一九八一年度事業計画案および予算案を原案通り承認決定。

2 第三八回定例所員総会（一九八一年二月二日、神田校舎12 A会議室）

議事 (1) 三輪所長挨拶、(2) 石渡貞雄所員を議長に選出、(3) 事業経過報告および会計経過報告、(4) 一九八二年度事業計画案および要求予算案を原案通り承認決定。

(二) 運営委員会・事務局の構成の変更

今期（一九八一、八二年度）の運営委員会と事務局の構成

は次の通り。

運営委員会——三輪芳郎所長、内田義彦所員（総合理論部長）、二瓶敏所員（現状分析部長）、望月清司（歴史部長）、玉垣良典経済学部部長、吉岡恒明所員、佐々木金三所員、麻島昭二所員、池田博行所員、土方保所員、内田弘事務局長。事務局——△事務局長▽内田弘、△研究会担当▽常行敏夫・原田博夫・津村英文、△編集担当▽平川東亜・小沼堅司・池本正純・柴田弘捷、△文献資料担当▽作間逸雄・須田美矢子、△財政担当▽水川脩・八林秀一、以上十二所員。

(三) 所員・所外研究員の移動

第三七回および三八回の定例所員総会に先立つ運営委員会（五月三〇日および二月五日）の議を経て、つぎの六名の諸氏が新所員に委嘱された。平井俊顕経済学部助教授、室井義雄経済学部講師、福島義和文学部講師、黒川保美商学部講師、林信夫法学部講師、樋口淳文学部助教授。

また島恭彦、志村嘉一の二氏は一九八一年三月三十一日をもって本学を退職されたので、所員の委嘱を解き、運営委員会の議を経て所外研究員に委嘱された。

坂牧三郎所員が一月九日に逝去された。慎んで御冥福を祈ります。

以上により第三八回定例所員総会時における所員は九三名、所外研究員は二〇名となった。

二 研究活動

(一) 定例研究会

(1) 五月三〇日、神田校舎12A

「内田義彦著『作品としての社会科学』をめぐって」 報告

者、石渡貞雄・二瓶敏・吉家清次・鐘ヶ江晴彦の四所員および大庭健文学部教員。

(2) 六月三〇日、生田社研

池田博行所員「交通政策の異質性」

(3) 一〇月三日、神田社研

福島新吾所員「現代の軍事力と平和」

(4) 一〇月三十一日、神田社研

隅野隆徳所員「日本国憲法に問われるもの」

(5) 二月五日、神田社研

早坂忠東京大学教員「ケインズの社会思想と国家観」

(二) 合宿（集中）研究会

(1) 三月一六～一七日、東京「潮音荘」

シンポジウム「アメリカの農業・日本の農業」 報告者、

玉城哲・二瓶敏・三輪芳郎の三所員。

(2) 七月二八日、工場見学、参加者一八名

東芝タンガロイ超合金無人化工場

(三) 実態調査

「低成長下における首都圏の産業と生活——京浜京葉工業地帯の総合調査」(一九七八年度発足、代表大西勝明所員)の調査結果の総括が下記の三つのグループの間で行われている。

① 企業グループ (黒岩俊郎・溝田誠吾・大西勝明・水川偉・田口冬樹の五所員)

② 地域社会構造と住民意識グループ (柴田弘捷・奥田和彦の二所員)

③ 農村・兼業労働力の調査グループ (二瓶敏・三輪芳郎の二所員)

(四) グループ研究助成

一九八一年度は次の六件にたいする助成が行われた。

(1) 「二一世紀に向けてのわが国経済・産業社会に関する研究」(吉家清次所員ほか八所員、一九八〇年度発足)

(2) 「戦前期における六大紡の形成、展開過程に関する実証的研究」(加藤幸三郎所員ほか一所員、一九八〇年度発足)

(3) 「ケインズ理論と現代経済の諸問題」(吉岡恒明所員ほか一二所員、一九七九年度発足)

(4) 「社会思想史の諸問題」(内田弘所員ほか八名、一九七九年度発足)

(5)「国際経済学の諸問題」(作間逸雄所員ほか六名、一九八一年度発足)

(6)「再生産論の現代的意義」(矢吹満男所員ほか八名、一九八一年度発足)

なお一九八一年度発足の右二件からは、つぎのような研究成果の公表義務が課せられている。グループのメンバーのうち一人以上の所員が当グループが定めた共通テーマに関連する個別テーマで、本研究所が指定もしくは承認した機関誌に研究成果を助成期間終了後二年以内に公表する義務を課す。

(五) 個人研究助成

一九八一年度は次の六件にたいする助成が行われた。なお、これらの助成にたいしては、交付年度より起算して原則として三年以内に、本研究所の指定も公しくは承認した発表機関に研究成果を公表する義務が課せられている。

(1)大西勝明所員「日本企業の海外進出についての実証的研究」

(2)柴田弘捷所員「『減量経営』下の労使関係と労働者生活の実証的研究」

(3)鐘ヶ江晴彦所員「地域社会における同和教育の実証的研究」

(4)酒井進所員「A・スミスの利潤率低下論と歴史認識」

(5)宇都栄子所員「老人の生活と地域社会」

(6)宮本光晴所員「組織と経済学」

(六)『専修大学社会科学研究所月報』の刊行

二〇九号(一九八一年一月)

森宏「日本における食料品、特に青果物流通システムと改善のための主要な政府の施策」

二一〇号(一九八一年二月)

宮田三郎「民間委託と地方自治」

二一一号(一九八一年三月)

青木信治「社会科学研究の原点を求めて」

二一二号(一九八一年四月)

「故山田盛太郎先生追悼号」

二一三号(一九八一年五月)

池田博行「歴史に見る鉄道政策——一憶測」

二一四号(一九八一年六月)

シンポジウム「アメリカの農業・日本の農業——春季合宿研究会報告」

二一五号(一九八一年七月)

作間逸雄「法人留保と乗数効果」

二一六号(一九八一年八月)

森宏「適正な外材輸入のあり方について」

二一七号(一九八一年九月)

池田博行「ポーランドの食料問題に寄せて」

二二八号（一九八一年一〇月）

「専大社研・訪中団・報告書」

二二九号（一九八一年一月）

水川脩「ヴァンターの『差別化』概念の検討」

二三〇号（一九八一年二月）

池田博行「ポーランド国の狭軌鉄道小史」

三 特別事業

(一) 社研訪中国の訪中

九月六日より九月一日の間、主に北京、上海の要所を、三輪芳郎所長を団長とする訪中団（全七名）が視察してきた。その報告は『月報』二二八号で行われている。

(二) 「内田義彦先生の大佛次郎賞受賞を祝う会」

一〇月三十一日、神田校舎8Aで、多数の参加者が内田義彦所員の受賞を祝った。当日行われた内田所員の講演は『月報』特別号で公表される予定である。

(三) 故大島太郎所員の遺稿集の頒布

『官権国家と地方自治』（A5版、三四三ページ、未来社、一九八一年）と『自治体革新の展望』（B6版、二八四ページ、未来社一九八一年）の二点の故大島太郎所員の遺稿集が

発刊されたのを期に、希望する所員に割引で頒布した。

（内田 弘記）